

月にみがきて



更級小学校
だより
No. 6
H25. 9. 30

運動会 ご支援・ご協力ありがとうございました

9月21日の140周年校庭運動会は天候に恵まれ、すばらしい運動会となりました。これもPTA役員の方々をはじめとする保護者の方々のご協力・ご支援のおかげです。ありがとうございました。前日準備、当日の片付け等ほんとうにありがとうございました。お陰様で子どもたちへの前日指導にまた、準備に昨年度以上に細部にわたって用意ができ当日を迎えることができました。当日は子どもたちも保護者の皆様にも怪我、熱中症等がなく安全にできたこともご支援ご協力のおかげです。

運動会まで各学年の子どもたち先生方が一体となってそれぞれ準備

練習をしてきました。当日の子どもたちの様子も印象的ですが、それまでの練習、準備に子どもたちが学んだことはたくさんあります。

左の写真は各学年の練習の様子です。それぞれの学年の練習にはそれぞれのドラマがありました。1・2年生のダンスは子どもたち自身が振り付けを創作していったダンスです。それを見守り、育てていくことは時間もかかりたいへんなことと思いますが、子どもたちの意欲や発想はたいへんなもので、それを先生方が大事に育て、当日のダンスになりました。

3・4年生のダンスはなかなかみんながそろって練習が難しいときもありましたが、学年間でお互いのダンスを見合いながら、少しずつみんなで一つのことをやり遂げる気持ちが育っていきました。

5・6年生の組体操の練習には2つの工夫がありました。

全体で一人で演技するところの練習を音楽に合わせてやっていたこと、もう一つは自分たちで考えたオリジナル組体操を練習してきたことです。音楽に合わせて動くことで自分で考え判断する必要があり、一人ひとりがそれがきちんとできて全体が揃ってきます。それを子どもたちに任せるのは教師にとっても少し勇気のいることですが、



1・2年生のダンスの練習



3・4年生のダンスの練習



5・6年生の組体操の練習

「子どもたちに任せる」そこに子どもたちが考え学ぶ一瞬が生まれるのだろうと考えてきました。子どもたちの主体性の発揮のしどころ、そんな練習の過程こそ、子どもたちが鍛えられる場面だろうと思います。みんなでひとつのことをやり遂げるところに協力の達成感が生まれ感動体験があり、それはそれで大切ではありますが、その練習過程にある一人ひとりの子どもたちの学びを大切にしたい。そんな思いがあったと思います。もう一つ、グループで考えまさに自分たちで考えた組体操は自分たちのオリジナル組体操は満足感もまた一つちがってくるように思えます。当日見ていただいたとおりですが、まさに子どもたちの発想の豊かさに感心するばかりです。が、同時に練習を見ていると、それが教えてもらった組体操をもとに発想していることがわかります。教えられたことを使って子どもたちがどう主体的



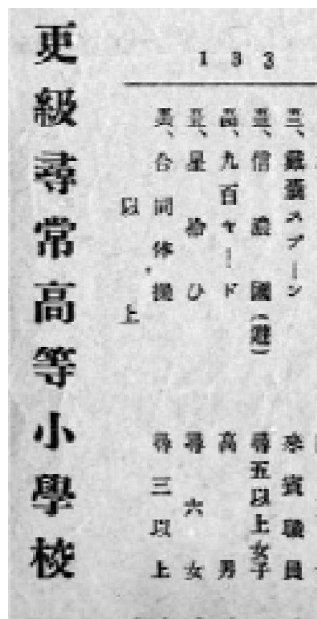
に動けるか、何に関心を持ち、何を考え、どんな新たなものを創造していくか、そんな場をたくさん用意できるとそれこそ確かな学力と言われるものが育つように思います。お家の方々はどのように見られたでしょうか。当日の感動はそんな子どもたちの成長の証であったと思います。

運動だけでなく、係活動にも熱心な子どもたちの取組がありました。年々児童数が減少する中で、一人ひとりにかかる負担は大きくなり、たいへんになりますが、逆に一人ひとりが大切な存在として鍛えられるということでもあるでしょう。

紅組の勝利で終わった運動会ですが、悔し涙を浮かべる白組の6年生の姿もありました。夢中になって、それこそ全力であきらめずにがんばっている姿がそこにあると、見ている大人が感動させられました。



信濃の国の踊り



長野県下でもPTAが運動会で信濃の国を踊るのは珍しいと思われます。県歌「信濃の国」の普及に乗り出しているアルクマが踊っているテンポの速い踊りを子どもたちのダンスに取り入れている学校はいくつかあるようです。このPTA信濃の国の踊りについて、本校の元石井智校長先生がH19に学校だよりで書いておられます。

大正3年の本校の運動会のプログラムには「尋五以上女子」が信濃の国を遊戯(ダンス)として踊っていましたから、この踊りがPTAの踊りとして現在まで続いているとしたら凄いですね。「正調信濃の国踊り(本家本元の附属小学校でも踊っていない)」を大事に引き継いでいって欲しいと思います。

この本文中に出てくる明治時代に踊られていた「正調『信濃の国』踊り」についてですが、県歌「信濃の国」の最初のバージョンは、明治31年10月に長野県師範学校(現信州大学教育学部)教諭であった浅井冽が作詞し、同僚の依田弁之助が作曲したものです。この曲は「信濃教育雑誌」に掲載されましたが、あまり歌われることはなかったそうです。しかし、翌1900年(明治33年)、同師範学校女子部生徒が、依田の後任であった北村季晴(すえはる)に同年10月の運動会の遊戯用の曲の作曲を依頼しました。このとき新たに作曲されたバージョンが現在歌われているものです。

この新しいバージョンの「信濃の国」は1900年(明治33年)10月大正三年運動会プログラム一部 25日、師範学校(現・信州大教育学部)で行われた創立記念運動会で、同校女子部の遊戯(踊り)とともに発表されて以来、様々に振り付けられた女性たちの踊りと一体になって、県内全域に広がりました。「振り付けがあると、歌を途中でやめられず、6番まで広く知られるようになった」と指摘する人もおり、踊りと歌との相乗効果が、「信濃の国」を幅広く定着させていった原動力となったようです。

ちなみに現在のご指導いただいている竹沢先生にお聞きしたところ、この振り付けは長野の方に教わったもので、6番まで全てちがうものだったが難しいので簡略化されて現在に至っているとのこと。昔は五加小、戸倉小でも踊っていて、そこに教えにいたり、戸倉の運動会でも踊ったそうです。ですから、更級小学校の振り付けも明治・大正時代に盛んに踊られていた「信濃の国」の踊りを伝えている可能性があります。50年近く更級小学校で続いている行事であり、今に伝えてきた更級小学校の文化であると言えるのではないのでしょうか。

8月の非違行為研修のまとめ

昨今の教員の非違行為を本校でも真剣に受け止め、本校からはそうした問題を起こさないように研修に取り組んでいます。下記はそんな中で8月に先生方でまとめた全校で取り組めそうなことみんなで意識していきたいことのまとめです。今後さらに具体的に取り組みたいと思います。お気づきのことがありましたら学校までお知らせください。

- 1 不祥事を出さないために全校で取り組めそうなこと
 - (1) 子どもをチーム支援していく。
 - ・できるだけ複数で対応する。
 - (2) 何でもしゃべれる仲間としての職場づくり、仲間作り
 - ・愚痴を言い合える仲間作り
 - (3) 開かれた教室
 - ・誰でも入っていけるクラスの雰囲気作りをする。
 - (4) ゆとりを持っていきたい。
 - ・なくしても困らない活動を精選する。
 - (5) 自分の対応を考へておく。
 - ・なぜそういう行動を取るか背景や特性を考へていく。